

施策	84	活気ある街づくりの推進	政策	8	山、里、街の魅力を高め交流と連携によるグローバルなまちづくり		
施策主管課	商業・市街地活性化課	課長名	松江良文	内線	4650	政策担当部長名	総合政策部長 今村和男
施策関係課名	土木課、地域計画課						
重点施策	○	関連計画	リニア将来ビジョン、国土利用計画飯田市計画、飯田市土地利用基本方針、飯田市景観計画、飯田市緑の基本計画、飯田市中心市街地活性化基本計画				

1 施策の目的

目的	対象	中心市街地
	意図	人や物が集まり活気がある

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
①	飯田市中心市街地活性化計画に基づく中心市街地の面積(H20.7.9に認定を受けた中活計画(第1期計画)によりH20より対象面積を変更。第2期計画も第1期計画を踏襲)	ha	151	151	151	151	151	151	151		
成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理											
①	中心市街地の人口	人	9,706	9,535	9,410	9,259	9,092	9,016	8,830	9,000	△
②	まちなかの6スポットの1日あたりの延べ歩行者数 <small>(本町1、銀座3、りんご並木、知久町1、駅前、中央通り4)</small>	人	13,676	16,066	15,114	16,958	14,896	14,422	14,454	14,000	○
③	中心市街地における都市福祉施設の利用者数 <small>(飯田市公民館、りんご庁舎、郷土ビル、おしやべりサラダ)</small>	人	110,978	118,277	112,187	117,009	110,107	111,181	127,999	112,000	◎

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムツ指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向		
行政	市	①中心市街地の整備に関する基本計画を作成する。(都市計画法:都市マスタープラン、中心市街地活性化法:中心市街地活性化計画等) ②基本計画に基づき、賑わい創出と再生のための整備の推進を行なう。(都市再生整備計画) ③法人等が行なう街づくりの公益的な整備について、必要な支援を行なう。(法、条例等) ④行政サービスや福祉・医療施設、生涯学習等の拠点機能の集積を図る。(暮らしにぎわい再生事業等) ⑤商業、産業、教育、福祉等の他分野との協働を通じて、街づくりへの市民参加を啓発する。 ⑥駐車場をはじめとする街なかの交通のあり方について方向性を示す。	①策定した計画数 (把握方法と単位:各課への照会数)	①	2	2	2	2	2	○	
			②計画に基づいた事業の実施数と進捗率 (把握方法と単位:各課への照会箇所、%)	②箇	44	47	44	50	54	43	◎
			③リニューアルや集積を行った施設数 (把握の方法と単位:各課への照会箇所)	②%	81	87	73	82	89	80	◎
			④公共施設の利用者数(動物園、りんご庁舎) (把握方法と単位:利用者統計人)	③	8	5	7	0	4	5	◎
			⑤訪れた人数 (把握方法と単位:歩行者・自動車通行量 4箇所)	④動	102,941	118,370	132,969	145,192	143,906	130,000	○
			⑥訪れた人数 (把握方法と単位:歩行者・自動車通行量 4箇所)	④り	20,640	16,774	15,174	14,179	14,053	26,000	○
			⑤訪れた人数 (把握方法と単位:歩行者・自動車通行量 4箇所)	⑤	7,520	7,476	8,604	7,772	7,898	8,592	○
主体	役割分担	ムツ指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)								
市民等	個人	・街づくりに対しての提案提言数 ・街づくりの活動への参加人数	○りんご並木に関心のある個人や市民団体が、りんご並木まちづくりネットワークの活動に参加することを通じて、また、様々な団体が飯田丘のまちフェスティバルの実行委員となることによって、中心市街地に関わりを持ち、活性化に貢献している。 ○高校生が学校の枠を越えた横の連携を作り、商業者と協働して賑わいづくり事業に取り組む活動が生まれている。								
	法人 (地区団体・公的法人、企業)	・街づくりに対しての提案提言数 ・主体となって行なった事業数 ・仕掛けたイベントの数と来訪者数 ・まちづくりグループの数	○まちづくり委員会や、公民館、連合青壮年会等地区の団体は、行政への提案に留まることなく、自らの活動により賑わいと潤いのあるまちづくりに取り組んでいる。(りんご並木歩行者天国イベント、橋北まるごと博物館の取組等) ○飯田丘のまちフェスティバル等では、様々な団体が催事を行う中、地元商栄会も連携し、積極的な参加をしている。 ○りんご並木を中心に、空き店舗活用等、民間事業者が中心市街地に新たな投資を行っている。								

役割の発揮状況

後期（5箇年）	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	○中心市街地活性化協会を軸に、様々な団体等の連携による切れ目のないソフト事業展開が行われてきたが、行政は、商工会議所等と共同して事務局を担い、より多くの主体の参加が得られ新たな取組が行われるよう、調整を行ってきた。
	多様な主体の協働を推進していくための課題	○中心市街地の活性化に関心の薄い市民等に、中心市街地の重要性を認識してもらい、積極的に関与してもらえるような仕組み作りが課題である。

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

この施策に対して有識者等（議会、市民、関係者・団体等を含む。）からどんな意見や要望が寄せられているか。	○まちの活性化・都市デザイン競技の提案を、地域の検討にどのように活かすか。中心拠点の機能と役割の視点、リニア駅周辺との連携に考慮すべき。(27年度議会常任委員会施策・事務事業実績評価説明より) ○中央公園のプール跡地の活用について、現状あまり有効活用されていない。(やらまいか提言) 【分野別懇談会意見】 ○市街地を回遊する人が少ないのは、滞留場所が少ないことも原因。中心市街地には緑が極端に少なく、都市計画を根本的に見直す時期に来ていると感じる。 ○飯田市には都市のデザインコードがないため、まちづくりに連続性がない。 ○イベントでは、高校生との連携が非常に良い方向に行っている。 ○中心市街地に滞留してもらうには、車で来るのではなく使い勝手の良い公共交通が必要。
施策を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。	○リニア長野県駅が郊外に整備されることから、リニア将来ビジョンの目指す小さな世界都市としての中心市街地に必要な役割や機能を明確化して、中心市街地の活性化に取り組む必要がある。

4 評価結果（後期5箇年）

(1) 実施した事務事業の評価（取組みの状況評価）	(2) 施策全体の評価（外部要因も含めた総合的な評価）
<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた <input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり <input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった <input type="checkbox"/> 達成できなかった	<input type="checkbox"/> 進んだ <input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ <input type="checkbox"/> あまり進まなかった <input type="checkbox"/> 進まなかった

5 後期5箇年の取組評価（主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因）

【評価結果の理由】

○成果指標の内、中心市街地の人口は、減少傾向にあり目標達成できなかった。中心市街地の歩行者数は、目標達成してはいるが減少傾向にあり、都市福祉施設の利用者は目標と同程度で推移している。  
○歩行者数の増加は、りんご並木を中心としたソフト・ハードの取組や、動物園の再整備などの各種取組が効果を上げており、これらのことを総合的に勘案し、全体として「ある程度進んだ」と評価する。ただし、まちなか居住の推進は大きな課題である。

【事務事業群テーマ別の評価】

<住みやすい中心市街地の整備>

○通行の安全確保のために、中心市街地の歩道における段差解消を行い、子供やお年寄りに優しく安全で歩きやすい歩道整備が進んだ。  
○老朽化した街路灯の整備により、歩行者の安全・防犯対策を実施した。また、LED照明に変更し、環境負荷の低減を図った。  
○仲ノ町酒造跡地に地元病院によるサービス付き高齢者向け住宅の整備が進んでおり、居住者増加に寄与できる見込み。

<中心市街地へのアクセス性の向上>

○中心市街地を回遊する電気小型バスプッチーの実証運行を実施し、親子連れを中心にまちなかの回遊性を高めた。  
○中央公園(東和)を片側に寄せることにより、県道羽場大瀬木線からラウンドアバウトまでの公園の再整備を含めた道路整備が完了し、市街地へのアクセス性が向上した。合わせて、羽場大瀬木線から中心市街地へのアクセス道路、ラウンドアバウト交差点における情報・行先表示等のため大型案内板を設置した。

<訪れたいスポットの整備・維持管理>

○リニア駅周辺との機能・役割分担や中心市街地にふさわしい都市デザインについて、JR飯田駅周辺を対象地区として(公財)都市づくりパブリックデザインセンター主催のまちの活性化・都市デザイン競技を実施した(26年度)。その提案について市民に周知するシンポジウムを開催するとともに各分野別の意見交換会を行っており、今後の駅周辺の整備に向けた取組を始めた。  
○所有と使用の分離による空き店舗活用の取組として、起業家を育成する連続講座まちなか空店舗再生創業塾を開催し、並木横丁いこいこ7店舗の創業を実現させた(26年度)。  
○りんご並木周辺商業施設等の利用の利便性を向上させるために、市営駐車場と同様のシステムを導入した飯田まちづくりカンパニーによる大型駐車場の開設に支援を行い、りんご並木周辺の駐車場不足への対応を行った(26年度)。  
○仲ノ町周辺の賑わいづくりの一環として、喜久水酒造跡地及び蔵についての活用を検討した。また、東栄公園の整備と二本松から東栄公園につながる歩行者専用道路を整備した。市道飯田99号仲ノ町まちなみ環境整備事業で、歩道整備を進めている。  
○桜並木の整備方針を策定するために調査業務として「桜並木とまちづくりを考える懇談会」を開催し、整備に向けた諸条件の検討を行った。  
○動物園は、改修工事(生息環境展示)を実施したこと、指定管理者による各種イベント企画を実施したことにより、入園者が大幅に増加した。  
○りんご並木再整備事業において、りんご並木舗装改修検討会議(市民会議)を実施し(27年度)、検討結果の報告書が提出され、これに基づきさらに歩きやすい空間としての整備を実施している。

<日常的なイベントの担い手支援>

○りんご並木まちづくりネットワークは、りんご並木をフィールドとしてイベント・まちづくりの複数の担い手が日常的に互いに連携し協働する取組であり、市もその一員として市民活動を支援した。  
○高校生文化フェスティバルなど商店街と将来を担う高校生との連携による取組に支援した。  
○飲食店の事業者による実行委員会を支援し、飲み歩きイベント「飯田丘のまちバル」を開催し(28年度)、日常のリピーター確保につながっている。  
○動物園来園者をターゲットとしたまちなか回遊事業「丘の上さんぽ」を実施したが、29年度以降事業者が主体的に実施する事業へ転換を図っている。

<イベントの開催>

○りんご並木活性化事業における歩行者天国イベント、中心市街地活性化協会を軸とした飯田丘のまちフェスティバルは、楽しみや賑わいのあるハレの場としての中心市街地の中心性を創りだし、参加団体も年々増加し、市民への定着が図られてきた。

<中心市街地関連事業の円滑な推進>

○リニア推進ロードマップの検討に合わせて、平成24～25年度の2年間にわたる検討を経て、平成26～30年度を計画期間とする「第2期飯田市中心市街地活性化基本計画」を策定し、61の具体的な事業を掲載した。これに合わせて、飯田市中心市街地地区都市再整備計画を策定し、整備の具体化を図っている。

## 6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

### <住みやすい中心市街地の整備>

○引き続き、歩道の段差解消、排水路等の整備により、安全で歩きやすい歩道等の整備を進める。

### <中心市街地へのアクセス性の向上>

- りんご並木・中央公園・桜並木通りを中心として道路整備を実施することにより集客の波及効果が発生するため、周辺の動線を検討することが課題である。
- リニア駅から中心市街地へのアクセス道路の動線、中心市街地周辺における大型案内板の内容を踏まえて、連続した大型案内板による誘導が必要である。
- リニア駅から中心市街地へのアクセスについては、リニア駅周辺整備計画と連携を図りつつ検討を進める必要がある。

### <訪れたいスポットの整備・維持管理>

- まちの活性化・都市デザイン競技の提案を参考に、リニア駅周辺との機能役割分担を明確にしたJR飯田駅周辺のあり方についての検討を進める。
- JR飯田駅周辺、仲ノ町周辺などでの新たな取り組みを行う組織等への支援を進める。
- 緑のネットワークの構築に向けて桜並木を整備する。
- 世界りんご並木ネットワークや丘のまちフェスティバル実行委員会などの仕組みを活かし、まちづくりの担い手を支援する。
- 中央公園(プール跡、中央広場・長姫)について、市民と共に検討を進め再整備することにより、中心市街地の新しい憩いの空間を創出する。
- 動物園の未改修の獣舎整備と、入園者が街を回遊してもらう仕組みが必要である。
- 世界人形劇フェスティバルに向けて故障中の人形とけい塔の更新を進める。
- 主に若者等の起業・創業の際に商店街の空き店舗を活用するよう誘導するために、空き店舗情報の整理発信、補助金等支援を行う。

### <日常的なイベントの担い手支援>

- りんご並木ネットワークや丘のまちフェスティバル実行委員会などの仕組みを活かし、まちづくりの担い手を支援する。
- 中心市街地の飲食店などの事業者が主体となって実施する「ハル」「丘の上さんぽ」事業など、まち歩き・店舗活性化の取組を支援する。
- 様々なイベントの重要な担い手として高校生が活躍できるような環境づくり、支援を広げる。

### <イベントの開催>

- 飯田丘のまちフェスティバルの一層の充実を図るため、内容充実、当日以外の盛り上げ企画などに取り組む。

### <中心市街地関連事業の円滑な推進>

- 第2期中心市街地活性化基本計画に基づく事業推進を図る。計画全体及び目標値、各種事業毎の進行管理を着実に進めるとともに、計画策定段階では未成熟であった事業については、具体化に向けて検討を進める。
- 平成31年度からの第3期中心市街地活性化基本計画の策定に向けて、多様な主体の参画を得ながら検討を進める。特に緑の配置や都市デザイン等の土地利用上の検討が重要である。